

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における

熊西 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査

| 主として「知識」に関する問題 【国語A・数学A】 | 主として「活用」に関する問題 【国語B・数学B】 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能 | <ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力 |

(2) 生徒質問紙調査

| 生徒質問紙調査 |
|-------------------------------|
| ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

熊西中学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、数学A・B)結果

・本校の結果

| | |
|-----|-----------------|
| 国語A | 全国平均正答率を下回っている。 |
| 国語B | 全国平均正答率を下回っている。 |
| 数学A | 全国平均正答率を上回っている。 |
| 数学B | 全国平均正答率を上回っている。 |

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

| | | 国語A | 国語B | 数学A | 数学B |
|--------|----|------|------|------|------|
| 平成24年度 | 本市 | 73.5 | 61.1 | 58.6 | 43.8 |
| | 全国 | 75.1 | 63.3 | 62.1 | 49.3 |
| 平成25年度 | 本市 | 74.7 | 65.0 | 60.3 | 38.2 |
| | 全国 | 76.4 | 67.4 | 63.7 | 41.5 |
| 平成26年度 | 本市 | 77.2 | 47.6 | 62.4 | 54.4 |
| | 全国 | 79.4 | 51.0 | 67.4 | 59.8 |

② 学力調査結果の分析

| | | |
|-----|-------------|---|
| 国語A | 全体的な傾向や特徴など | ・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、書く能力についてはやや上回っている。 ・話す・聞く力や読む力を問う問題に課題がある。そのため、朝の10分間読書の充実と、話すこと・聞くことや読むことの習慣化に取り組んでいく必要がある。 |
| | よくできた問題 | ・多様な方法で材料を集めながら考えをまとめる問題は、正答率が高い。 |
| | 努力が必要な問題 | ・抽象的な概念を表す語句や歴史的仮名遣いに留意しながら内容を理解する問題の正答率が低かった。 |

| | | |
|-----|-------------|--|
| 国語B | 全体的な傾向や特徴など | ・全9問中正答率が全国平均を下回る問題は3問であったが、いずれもかなり下回っているため、全体的には全国平均正答率をやや下回っていた。 ・表現の技法についての問題や、文章から必要な情報を読み取る問題に課題がある。 |
| | よくできた問題 | ・登場人物の言動の意味を考えたり、根拠を明確にして自分の考えを書いたりする問題の正答率が、全国平均をかなり上回っていた。 |
| | 努力が必要な問題 | ・表現の技法についての問題や、文章から必要な情報を読み取る問題の正答率が低かった。 |

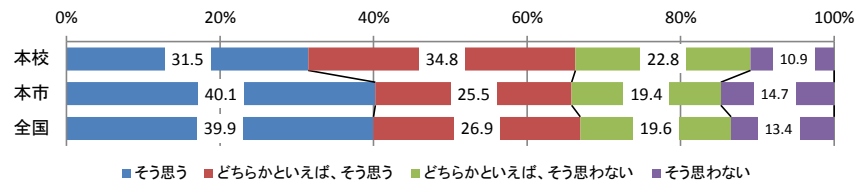
| | | |
|-----|-------------|---|
| 数学A | 全体的な傾向や特徴など | ・全国平均正答率を上回っており、基礎・基本の定着が見られる。全国平均正答率をかなり下回る問題は、36問中わずか2問であった。 ・領域別では、「図形」や「資料の活用」の正答率が高かった。 |
| | よくできた問題 | ・不等式、方程式、図形(特に三角形の性質)、確率についての問題の正答率が高かった。 |
| | 努力が必要な問題 | ・比例や反比例の意味を問う問題についての正答率が低かった。 |

| | | |
|-----|-------------|---|
| 数学B | 全体的な傾向や特徴など | ・全体的には全国平均正答率を上回っていた。ただ、全15問中2問が全国平均をかなり下回っており、指導の改善が必要である。 ・領域別では、「数と式」や「資料の活用」の正答率が高かった。 |
| | よくできた問題 | ・数式や図形の証明を問う問題の正答率が高かった。 |
| | 努力が必要な問題 | ・言葉や図で説明する問題が、全国平均正答率をかなり下回っていた。 |

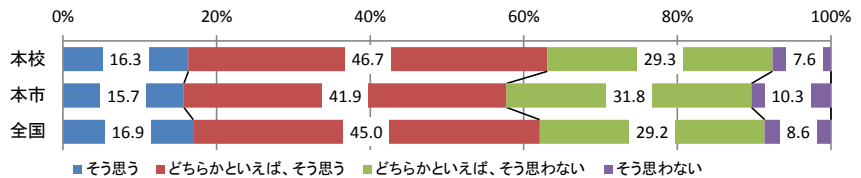
③ 学校での学習状況に関する調査結果

| |
|------|
| 質問番号 |
| 質問事項 |

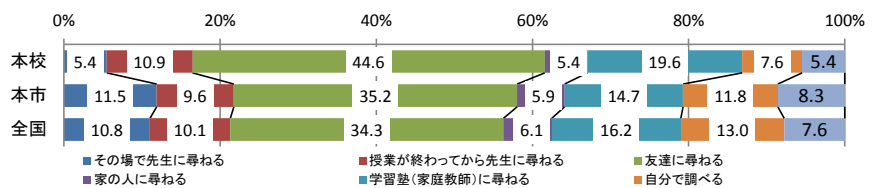
| |
|---------------------------------------|
| 46 |
| 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか |



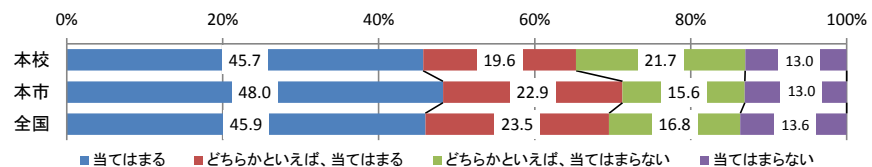
| |
|---|
| 48 |
| 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている |



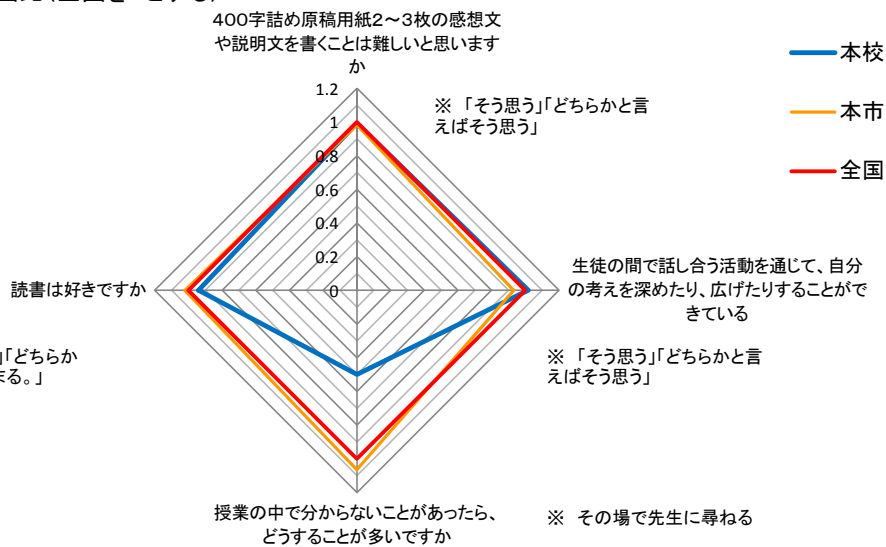
| |
|--------------------------------|
| 49 |
| 授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか |



| |
|----------|
| 53 |
| 読書は好きですか |



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



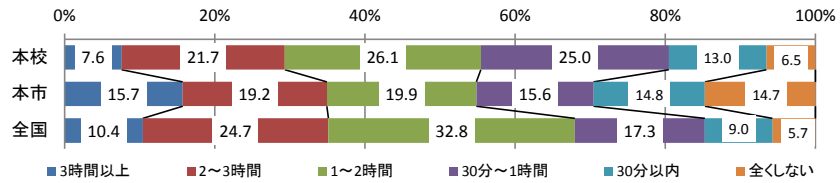
⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

- ・話し合う活動の機会が与えられていると答えている生徒は、全国平均を上回っており、全校的に各教科での話し合い活動を重視している成果が出てきている。
- ・文章に書くことに抵抗感を持っている生徒は、昨年度と比べてやや減少している。書くことに関しては、数学Bの言葉で説明する問題の正答率が低いことにも関連が深いと考えられる。どの教科においても、自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返り(まとめ)を書く活動を位置付けたりして、書くことを授業にもっと取り入れていく必要がある。
- ・読書に関しては、朝の10分間読書をもっと充実させるとともに、各教科で図書館を活用した学習の機会を増やす必要がある。
- ・分からないところを教師に気軽に質問できる雰囲気づくりをしていく必要がある。

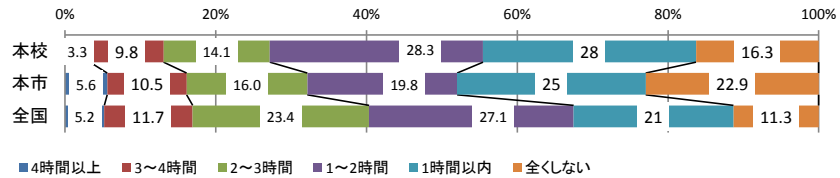
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

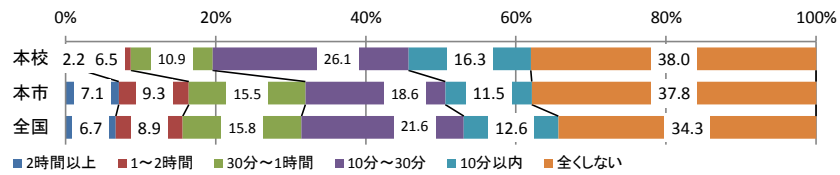
14
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



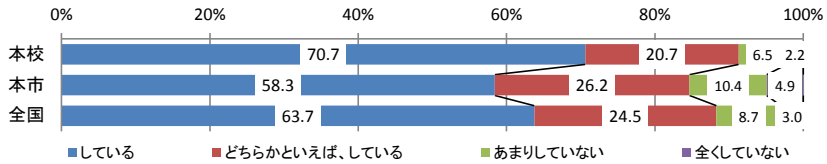
15
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



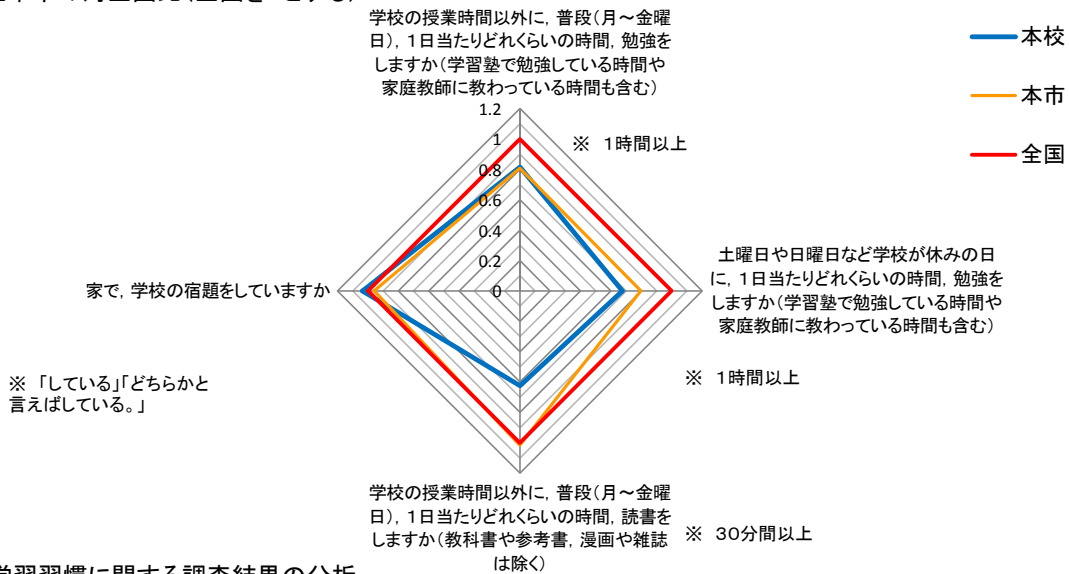
17
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



22
家で、学校の宿題をしていますか



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

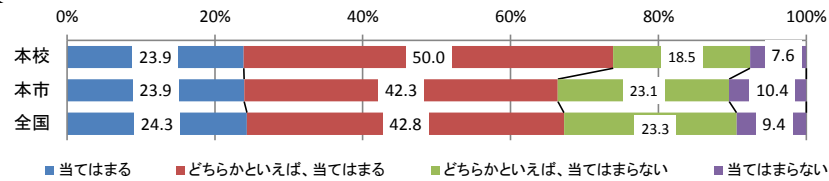


③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

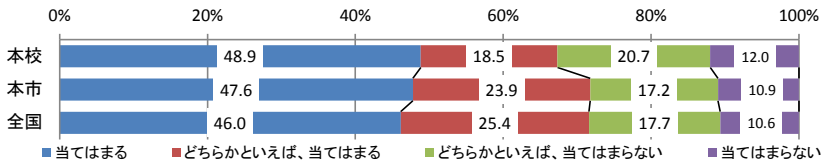
- ・家で、学校の宿題をしている生徒は、年々増えてきており、全国平均より高くなっている。
- ・家庭での学習時間は、全国平均と比べて、平日で80%、休日で60%と低くなっており、宿題以外の家庭学習時間が少ないことが分かる。自主的な家庭学習の大切さを自覚させるとともに、家庭学習の具体的な取り組み方を指導する必要がある。
- ・家庭で普段30分以上読書をしている生徒の割合は、全国平均の60%で、家庭での読書習慣を定着させていく必要がある。

④ 生活習慣等に関する調査結果

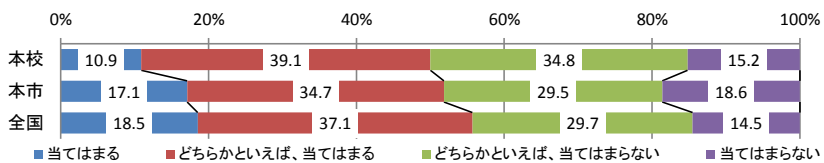
6
自分には、よいところがあると思いますか



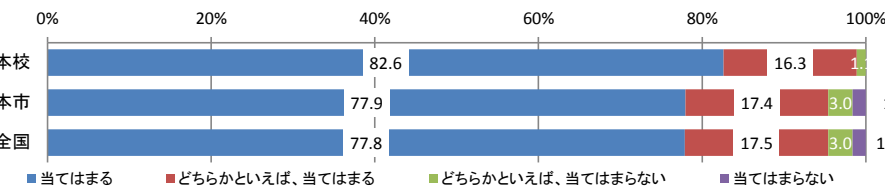
10
将来の夢や目標を持っていますか



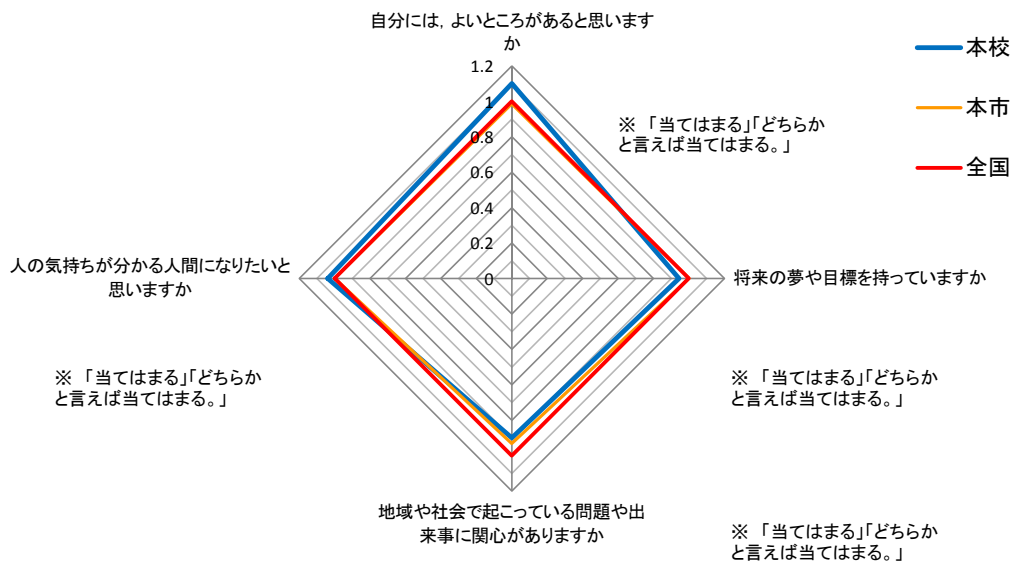
30
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか



36
人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

・「自分には、よいところがある」「人の気持ちが分かる人間になりたい」と思う生徒が年々増えてきており、全国平均と比べても高かった。行事等を通してさまざまな取組を行い、自尊感情や思いやりの心を育ててきた成果と思われる。

・将来の夢や目標を持っている生徒が、全国平均よりやや少ない。キャリア教育や進路指導の充実を図っていききたい。

・地域や社会で起こっていることへの関心が、やや低い。授業で新聞を活用するなどして、地域や社会の一員としての自覚を高めさせていきたい。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 学力向上のための強化週間の実施
 - ・ 定期考査前1週間の予想問題づくりなど、朝自習の取組を実施する。
 - ・ 定期考査前1週間の放課後教室を実施し、教師への質問の機会を増やす。
- ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
 - ・ アシストシートやWEB問題を導入で使い、基礎・基本の徹底を図る。
 - ・ アシストシートや過去問題を冊子にして、冬休み・春休みの「宿題帳」とする。
- 各学年フロアに自主学習コーナーを設置し、自学自習や質問をする機会を増やす。
- 「書くこと」を習慣化
 - ・ 学習の最後、3分間を「まとめ(振り返り)」タイムとして、学んだことを自分の言葉で書けるようにする。
 - ・ 校内ノート展を通して、よいノートのまとめ方を理解させる。
 - ・ 生活ノートや学級日誌などに3行程度の「ミニ日記」を書く。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 家庭学習の定着に向けた取組
 - ・ 学年全体で宿題の内容や量の調整を行い、宿題の片寄りがないようにする。
 - ・ 定期考査1週間前は、ノーテレビ・ノーゲームにチャレンジさせる。
- 自学ノートなど、自主学習の取組を推進する。
- 家庭での「読書」の習慣化
 - ・ 各学年の推薦図書を選定し、全校集会での表彰を位置づける。
 - ・ 「家庭学習チャレンジハンドブック」や読書ノートなどを活用する。
 - ・ 自学ノートの学年集会での表彰、家庭学習マイスター賞への応募を奨励する。
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・ 家庭教育学級やPTA理事会等で、結果と取組を説明し、家庭と連携して協力体制を整える。